

宮古島市新水道ビジョン及び経営戦略 パブリックコメントQ & A

Q1. 水需給見通しはどのようになりますか？

A1.

- 昨今、人口増・リゾート開発急増に伴い水使用量は増加する傾向にあり、特に伊良部島での需要が多くなってきています。当面は、現在の水源水量と袖山浄水場の能力増強によって対応することはできますが、余裕はあまりありません。
- 本市では過去濁水に見舞われ給水制限を行ったこともあり、このような状況でも安定的に給水するには、現在の宮古本島の水源だけでなく他水系の水源を確保することが望ましいと考えます。
- そのため、水需要増と安定した水道水の供給に対応するために、現在休止中の伊良部系の水源と浄水場を再稼働する計画です。

※ビジョン本編の掲載ページ・・・ページ69～72

※このQ&Aは、参考資料1の施策体系の実施項目②、⑧、⑰に関連します。

宮古島市新水道ビジョン及び経営戦略 パブリックコメントQ & A

Q2. 宮古島の水道水の安全性について教えてください。

A2.

- 毎事業年度の開始までに「水質検査計画」を策定し、本市ホームページで公表しています。この計画では、水質検査（採水地点や検査項目、検査頻度、自己/委託の区分、結果の公表等）の内容を明らかにするとともに、水源及び原水、浄水の水質状況について報告しています。今後も、安心・安全な水道水を供給するために、水質検査計画を継続して策定します。
- 水質検査の結果は、本市上下水道部のホームページで速やかに公表します。
- 水安全計画は、水源から各戸の給水に至るすべてのプロセスに存在する危害を抽出・特定し、それらを継続的に監視・抑制するために策定するものです。本市では、袖山浄水場系統における水安全計画は策定済みです。水安全計画が有効に機能しているかどうかを確認・検証し、必要に応じて改定します。
- 本市の原水は、地形的特性から硬度が水質基準を大きく超過しているため、水質基準内に管理するために硬度低減化処理をしてい

ます。現在、袖山浄水場と加治道浄水場に硬度低減化施設を設置しています。このうち、袖山浄水場の硬度低減化施設は、供用開始から20年近く経過して老朽化が進行しています。将来にわたって安全で安定した水を供給するために更新工事を行います。

- また、本市の農業はさとうきび栽培が盛んなため農薬を使用していますが、農薬のうち、さとうきびの土壌害虫殺虫剤として使用しているフィプロニルについては人体に及ぼす影響が懸念されています。現在水源ごとに農薬類の水質検査（22項目）を実施しており、フィプロニルだけは毎月検査を行い、水源水質の監視に努めています。各水源におけるフィプロニルの水質検査結果では、国が定める目標値を大幅に下回っているため問題ありません。

※ビジョン本編の掲載ページ・・・ページ45～47、86～88

※このQ&Aは、参考資料1の施策体系の実施項目①、③～⑦に関連します。

宮古島市新水道ビジョン及び経営戦略 パブリックコメントQ & A

Q3. 災害への備えはどのようにされていますか？

A3.

- Q1でも述べましたが、本市では過去渇水に見舞われ給水制限を行ったことがあります。そのため、渇水時も安定して水道水を供給できるように白川田貯水池に原水を貯水しています。さらに、渇水期の袖山浄水場の負荷を軽減させるために、伊良部系の水源と浄水場の再稼働も計画しています。
- 水道を供給するために重要な管路に該当している導水管や送水管などの耐震化工事を行い、地震に強い水道を構築します。また、配水管のうち、布設後40年以上経過している老朽配水管の更新工事を行い、漏水事故を未然に防ぎます。さらに、一部の配水池は耐震性が不足していますので、耐震化工事もしくは配水池そのものの更新工事を行います。
- 地震や豪雨、台風などの災害時においても、応急復旧や応急給水を迅速に行えるように、実効性のあるマニュアルの整備が必要です。本市上下水道部では、施設事故を対象とした危機管理マニュアルを作成したところです。今後は、沖縄県や宮古島市の地域防

災計画で想定されている危機事象に対して、厚生労働省の策定指針に基づき、危機管理対策マニュアルの拡充と定期的な見直しを行うとともに、マニュアルに基づく訓練を実施します。

- その他の取組として、地震時などの災害により水道管が破損し、給水区域内で断水が発生した場合、応急給水対応が必要となるため、一部の配水池にて応急給水栓やサドル分水栓などの器具を設置しています。非常時には給水タンクを搭載した給水車や簡易組立式給水槽の設置により給水を行います。

※ビジョン本編の掲載ページ・・・ページ40、53、91、93
～96

※このQ&Aは、参考資料1の施策体系の実施項目⑧、⑰、㉑、㉓、
㉔～㉙、㉚、㉜に関連します。

宮古島市新水道ビジョン及び経営戦略 パブリックコメントQ & A

Q4. 水道料金の見通しはどうなりますか？

A4.

- A1 でも述べた通り、今後は人口の増加、リゾート開発の急増が予想され、水需要量は増加し、水道料金の収入は増えることが予想されています。今後実施予定の老朽化施設・設備・管路の更新及び耐震化工事には多くの工事費がかかりますが、国の補助金制度や企業債借入を活用することにより、現在の水道料金を大きく改定する可能性は低いものと考えています。
- しかしながら、社会情勢の変化によっては、現在予測している水道料金の収入が見込めないことも考えられます。例えば、昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、水使用量は減少しており、令和2年度の給水収益は大幅な減収が見込まれています。また、今後も新型コロナウイルスの感染拡大が継続するようであれば、リゾート施設の開発行為が停滞する可能性も想定され、予想していた水道料金の収入を得られないことも考えられます。そのような場合には、今後の事業環境を踏まえて、財政計画を見直し、適正な料金水準について検討します。

※ビジョン本編の掲載ページ・・・ページ97、111～113

※このQ&Aは、参考資料1の施策体系の実施項目⑳、㉑、また、
参考資料2の財政収支見通しの結果と関連します。